

令和6年度第4回阿南市教育振興基本計画等策定委員会議事録

日時：令和7年1月28日（火）13:15～14:30

場所：阿南市役所 6階604会議室

出席者：委員：12人中11人出席（別紙委員名簿参照）

教育委員会：坂本教育長、林委員、里美委員、新居委員、岡本委員

市側：中橋教育部長、鎌田学校教育課長、田上（毅）生涯学習課長、山下人権教育課長、篠原スポーツ振興課長、松本学校給食課長、松村那賀川図書館長、中川科学センター館長、富永青少年健全育成センター所長、市瀬教育研究所副所長、

事務局：田上（浩）教育総務課長、西岡学校再編推進室長、小笹教育総務課長補佐

傍聴者：1人

会次第

1 開会

2 議事

（1）第4期阿南市教育振興基本計画素案について

（2）パブリックコメントの実施について

（3）その他

3 閉会

議事（1）第4期阿南市教育振興基本計画素案について

（委員）

安心安全な学校給食の提供について、学校側として、カロリーメイトは簡易給食として調理できない場合や給食の事故が起きた場合に配付するものと考えている。災害時にもそれらを使うことはもちろんのことであり、教育振興計画の中にも入れていただき、今後予算化を進めていただくことは非常にありがたいと考えている。

一方で、南海トラフ地震の発生率が高まっている中、各校では地域住民の方も避難されることも想定すると非常食が不足すると考えて、すでに子どもたちのために保護者負担で長期保存水などを購入しているところもある。本校でも、置く場所の確保や保護者の理解が必要であるが、市の対応と重なるのはまずいと考えたため、校長会として令和7年度の予算要望を出したところである。

ただ、予算要望にあたって、危機管理課のご意見では先が遠い話であるとお聞きした。危機管理課、学校教育課、学校給食課が連携をとりながら、予算化に向けて前に進めていただきたいと思う。

また、学校給食費の無償化について、保護者からもいつになるのか相談を受けることがある。高騰分を市が負担してくださっていることや、全国に対しても働きかけていることなどを、学校現場としても保護者にお伝えし、理解を求めていくことが必要であると感じている。

（事務局）

非常食の備蓄については、危機管理課とも連携して、素早い備蓄に向けて検討をしていきたいと考えている。

また、学校給食費の無償化については、市議会や市の PTA 連合会からも多くの要望が寄せられているところである。引き続き、無償化に向けて検討を進めていきたいと考えている。

（委員）

子どもの意見表明について、「表明」という表現が少し強い印象があり、自分から発表しなければいけないというイメージがある。「聞き取り」など言えない子の意見も拾い上げるような、柔らかい表現があればいいと感じる。

（事務局）

子どもたちにはそれぞれの個性がある。学校現場でも、それぞれの個性に応じた表現をしていくことを進めており、表明という表記の中に多様な表現というのを含めているということで、ご理解いただければと考えている。

（委員）

部活動の地域移行について、令和7年度から教育委員会にコーディネーターを配置するということが、こういった方がコーディネーターとして配置される予定なのか。

（事務局）

令和7年度からのコーディネーターについては、県の事業にコーディネーター派遣事業というのがあり、その派遣事業を活用させていただくような形になる。県からのコーディネーターということで、具体的なところはまだ未確定な部分がある。その点、ご了承いただきたいと思います。

（委員）

P.81 の計画の進行管理について、「執行の状況の点検及び評価」とあるが、これは公募委員が行っている評価のことでよろしいか。

（事務局）

そのとおりである。

（委員）

評価するにあたって判断材料がなく、私自身は各学校のホームページを確認しながら行っている。その場合、去年と同じことをしているのに評価が下がったり、去年よりももっと取り組んだことが評価されなかったりすることがあると感じている。

もし、今後も評価するのであれば、評価会議みたいな形で各学校の取組や事例を聞ける場があれば、評価しやすいと感じている。ぜひ、要望としてお願いしたいと思う。

（事務局）

市としてもその意見は重要なことであると思うため、検討したいと思う。

（委員）

議会にかけると書類でもあると思うため、その評価が公募委員の感想文ではなく、きちんと評価に値するような内容にするためにも、ぜひお願いしたいと思う。

それからもう1つ、理系人材の育成については、文部科学省も推進していることだと思う。その中で最近感じるのは、若杉山古墳などの歴史文化の方も融合したような形で、理系だけではなく、阿南市ならではの人材育成を推進していくのもいいのではないかと感じている。

（事務局）

理系人材の育成については、市の総合計画の施策とも整合性を図っていくということで、特に理系ばかりを推奨するというのではなく、文系の施策にも十分注力していきたいと思っている。

（委員長）

理系人材について、理系と文系の2つに分けているわけではないと考えている。文系と思われる職業にも理系的な発想が必要であるということを含めて理系人材というのが現在の考え方であると思う。文系だから数学や統計学が不要というわけではなく、それらを身につけたうえで文系的な仕事をする、そういったことも含めて、理系人材の育成と言われているのではないかなと思う。

（委員）

一般の市民が見たときに理系人材と書かれていたら、文系はいいのかと感じてしまうのではないかなと思う。

（委員長）

市の方も全体を見直していただき、文章を練っていただければと思う。

（委員）

教員が不足するときに、県の方で事前登録した教員に来ていただく仕組みがあったと思う。ただ、実際には登録者が少なく、機能していないという話も聞いている。

そうすると、先ほどの部活動地域移行のコーディネーターの説明でも、県から来ていただくということだが、実際に令和7年度から来ていただけるのか、また実際に機能するのかを把握されているのであれば教えていただきたい。

（事務局）

県の方からコーディネーターについて、阿南市に派遣できる人材を確保していることは確認している。

また、コーディネーターの配置によってどれだけの機能を果たせるかについては、まずは阿南市の現状等をコーディネーターの方と共有して、十分に議論を重ねていくことが大事であると思う。その中で、よりよい形の地域移行に向けて具体的な方策、方向性をできるだけ早くお示しできたらいいと思っている。

（副委員長）

キャリア教育について、地元の産業を知ることが小学校や中学校から進めていただき、人口減少が進む中で、阿南市に留まるような人材を育てていただきたいと思う。

(事務局)

阿南市でも人口減少が進むとされる中で、計画には「持続可能な地域社会の実現に向けた教育の推進」ということで、キャリア教育や先ほどの理系人材の育成という項目を掲げている。

具体的には、阿南市が進めているバッテリーバレイ産業のことも踏まえながら、企業の見学や阿南光高校や阿南高専といった高等教育との連携など、阿南ならではのキャリア教育や理系人材の育成の取組を進めていきたいと考えている。

(委員)

P.48 のアンケート結果の考察で、「子どもが、手伝いやいろいろな遊びなど、さまざまな体験をする機会が減っている」と挙げられている。この部分は、幼稚園や保育所等の就学前教育で大事にしていることだと思っている。

そのため、市が掲げる教育理念の「学び つながり 輝け 自分」の「つながり」の部分で、就学前教育で大事にしている体験や体験を通した学びを、小学校以降につなげていくことが、私たち就学前教育に携わる者の責任でもあると思う。そういう部分で、協力してつなげていければと思う。

(事務局)

幼児教育から義務教育へのつながりというところで、段差のない形で具体的にはスタートカリキュラムとも言われるが、子どもたちが幼児期の遊びこむ、そのあたりのしっかり没頭するというような学びを小学校でもつなげていければと考えている。今後ともご協力いただければと思う。

議事（２）パブリックコメントの実施について

(委員長)

具体的にどういう方法でパブリックコメントを実施するのか、追加で説明をお願いしたい。

(事務局)

阿南市のホームページで掲載するほか、公民館や支所等で冊子として実際に見えるように配置して、広く周知していきたいと思っている。また、小中学校の保護者の皆様にはマチコミメール等を通じて周知し、ご協力をいただければと思っている。

(委員長)

意見の提出はメール、手書き、ホームページへのアップロードでしょうか。

(事務局)

意見の提出はメール、電子申請及び紙で受付している。

議事（３）その他

質疑無し

以上